

「関東大震災100年、記憶・継承されるべき真実

隠された爪痕

関東大震災朝鮮人虐殺記録映画 58分

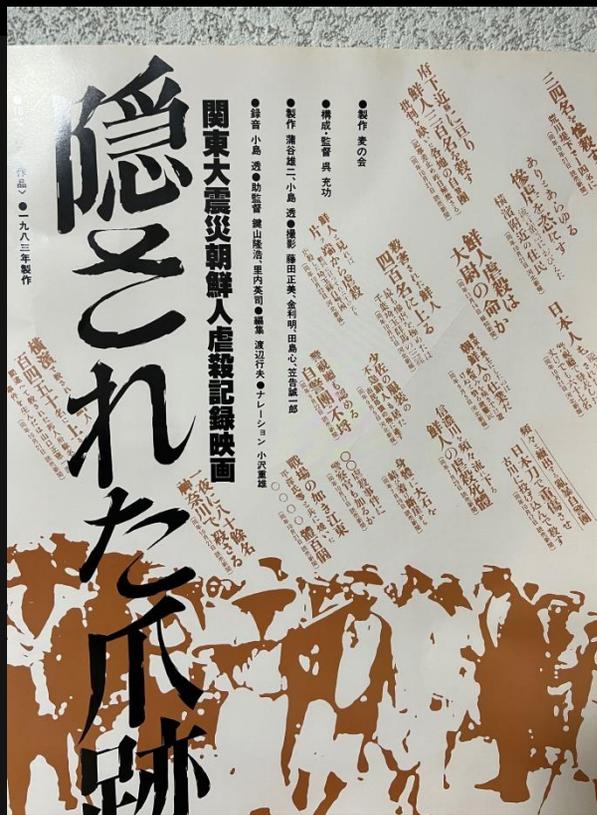
払い下げられた朝鮮人

関東大震災と習志野収容所 53分

第1作 隠された爪跡

東京荒川の59年目にあけられた朝鮮人虐殺遺体の発掘作業を、1923年9月1日夜半から繰り広げられた機関銃による日本軍の朝鮮人を集団射殺した事実と2日の早朝に消防隊に拘束連行されながら鳶で足を刺されたまま目の前の自警団の迫害と虐殺から運良く生き延びた曹仁承氏・曹仁承氏の証言を軸に、同じ時間帯に荒川土手で青年団員で虐殺死体を石油で焼いたと証言する浅岡老人等日本人数名が当時の流言蜚語に振り回されて朝鮮人虐殺に加担した生々しい目撃の現場を語り始める。

1923年に遡る1919年3月1日 朝鮮全土に沸き起こった独立万歳を叫ぶ朝鮮民衆とこれを武力で弾圧処刑した日本軍のジェノサイド。その歴史背景と関東大震災の起こる前に生活苦の為に日本に渡ってきた朝鮮人労働者の実態に迫る。関東大震災発生直後に 戒厳令の発布を準備した警視總監と内務省警保局長は着任前は 日韓併合による植民地支配下で朝鮮総督府で朝鮮人の独立運動を武力で厳しく弾圧した当事者であった。



制作監督 吳充功 Oh ChoongKong

2作 払い下げられた朝鮮人

関東大震災時 関東各地の警察署などに予備検束、收容された3,500人の朝鮮人と中国人700名を千葉県習志野にある陸軍高津支隊朝鮮人收容所に戒厳司令部の指示のもと「保護收容」を目的に移送した。移送の道中、船橋、江東区の大島では興奮した民衆と自警団が警察が制止するも朝鮮人集団に襲いかかり女性・子どもまで惨殺してしまう。負傷したまま習志野の收容所に到着した朝鮮人を戒厳軍は 周辺の村々の自警団に「朝鮮人をくれてやるから取りに來い」と村役場を通して払い下げを命じる。高津観音寺にあった自警団本部に集められた朝鮮人15名を4つの部落に振り分けて、農民達で構成された自警団は罪もない朝鮮人を名前を聞かず日本刀と猟銃で殺害する。残された自警団の虐殺を記録した日記と密かに供養を続けた観音寺の住職。朝鮮人移送を担当した野戦砲隊の元陸軍兵の証言と船橋警察署の警察官による事件の再現を、証言と残された写真で試みる。

1985年 8月 観音寺に 韓国から大きな贈り物が貨物船で横浜港に届く。関東大震災朝鮮人虐殺を主題にした戯曲の取材でなぎのはらを訪れた金義卿作家、民俗学者 沈雨晟氏が朝鮮人犠牲者を慰霊する施設を作りたいと韓国の文化芸術家とチャリティ文化基金で建設した慰霊の鐘楼が観音寺に運ばれる。韓国の木柱と屋根に150枚の朝鮮瓦を載せ、鮮やかな丹青で彩色された慰霊の普化鐘楼が観音寺の丘に韓国職人の手で組み立てられる。

* 映画完成後の 1998年、なぎのはらで虐殺され埋められたまま 75年間放置された遺骨の発掘が非公開で行われ、遺体6体が掘り起こされる。1999年慰霊の鐘「普化鐘楼」の側に高津区特別委員会と観音寺そして長年千葉県で朝鮮人虐殺の追悼調査を積み重ねた市民団体、三者名義で追悼碑を建て6体が納骨された。

日時: 7月9日(日)

13:30 - 16:30

場所: イーブルなごや

ホール

地下鉄 名城線「東別院」下車

1番出口から東へ徒歩3分

参加費

一般: 1,000円 学生: 500円

主催

「韓国併合」100年東海行動
実行委員会

中村区那古野1の44の17
嶋田ビル2F

Eメール 31demo1919@gmail.com